【 震災学習 ×〇〇 ～地域資源と組み合せることでより深く楽しく充実の学びを～ 】

モデルプランの紹介

半日コース例　震災学習×「“海”を五感で感じる」　所要時間 90分

▶ 9：45　野田村役場に集合、出発
- イントロダクション　野田村復興展示室（野田村の基礎情報提供、一日の流れ確認）
- ウォーク１　野田漁港エリア（荒海ホタテ、のだ塩などの生産再開や避難場所の体感）
- ウォーク２　新町エリア（高台移転と住みよい団地造成の秘密）
- ウォーク３　十府ヶ浦公園エリア（広々とした公園に隠された防災まちづくりの工夫）
- クロージング　ほたてんぼうだい（大津波祈念碑の前にて教訓を刻む）

▶ 11：15　道の駅のだにて買い物、解散

十府ヶ浦海岸で砂浜ウォークを取り入れるのもオススメ

半日コース例　三陸鉄道「震災学習列車」との連携　所要時間 150分

列車からみる景色と歩いてみる景色とを比較することができます

▶ 9：20 ～ 10:00　三陸鉄道「震災学習列車」（田野畑駅→十府ケ浦海岸駅）
- オープニング　震災遺構：米田歩道橋・米田水門（震災の爪痕を体感する）
- ウォーク１　ほたてんぼうだい（大津波記念碑の前にて教訓を刻む）
- ウォーク２　十府ケ浦海岸（みちのく潮風トレイルを歩きながら、自然の美しさを感じる）
- ウォーク３　野田村復興展示室（今後の災害に備える復興まちづくりを学ぶ）
- クロージング　三陸鉄道陸中野田駅（のだ塩や山ぶどうなど、地域の産業の特徴を知る）

▶ 11：50　陸中野田駅にて解散

終日コース例　震災学習×探究学習（防災ワークショップ､ジオパーク､地域産品…etc.）　所要時間 6 時間

▶ 10：00　野田村役場に集合、出発
- ～歩く・感じる～　防災ウォークプログラム（見開きページ参照）

▶ 12：15　野田村内食事処にて郷土食体験ランチ

▶ 13：30　野田村内にて探求学習
- ～考える・深める～

農家食堂での郷土料理づくりなど食文化体験も可能です

事例①　防災減災ワークショップ

実際の発災時に直面しうる悩ましい選択（分かれ道）の中で意思決定をするワークショップ「クロスロード」を通して、災害をイメージしながら、自分の判断・決断を磨き、実践的な行動変容へとつなげます。

事例②　三陸ジオパーク

マリンローズパーク野田玉川をはじめとする村内にあるジオサイト。地質遺産から地球の過去を知ることで、現在の私たちが未来に向けてどのように行動するかが見えてきます。

事例③　地域産品「のだ塩」

塩や海産物を牛の背に積み、内陸の米や野菜と物々交換した交易の道である「のだ塩ベコの道」。のだ塩工房では、伝統の直煮製法を見学することができ、その味の違いを体験してみることもできます。

▶ 16：00　道の駅のだにて買い物、解散

発行　野田村 未来づくり推進課
〒028-8201 岩手県九戸郡野田村大字野田20-14
TEL 0194-78-2963　FAX 0194-78-3995

「防災ウォーク＆ワークショッププログラム」の詳細はこちら

映像で知る野田村ってこんなところ

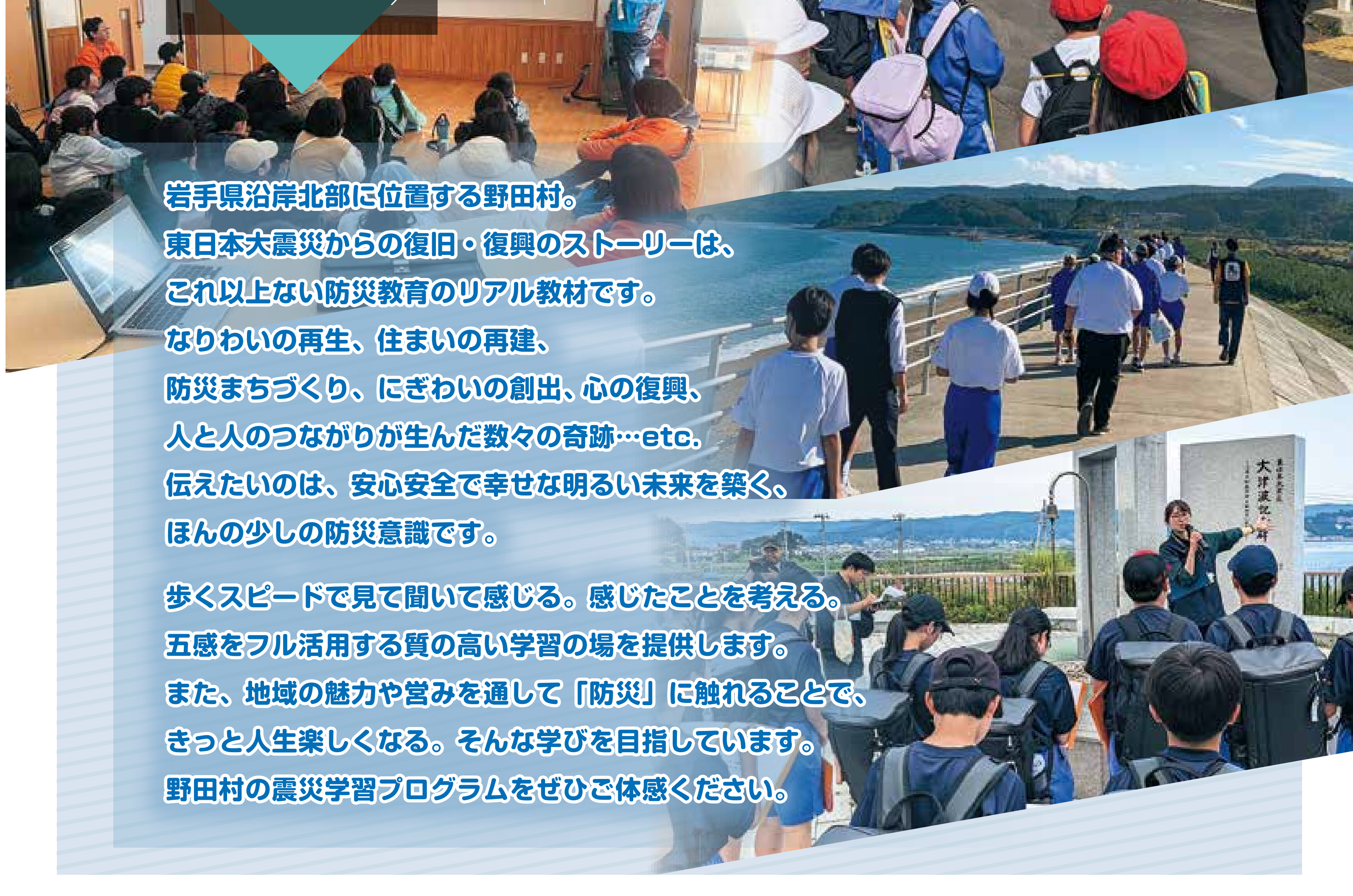
歩く。見て、聞いて、感じる。そして考える。

未来の「いのち」へ生かす“時速３km”の震災学習

by 岩手県野田村

団体・グループ向け学習プログラム

防災ウォーク＆ワークショッププログラム



岩手県沿岸北部に位置する野田村。
東日本大震災からの復旧・復興のストーリーは、
これ以上ない防災教育のリアル教材です。
なりわいの再生、住まいの再建、
防災まちづくり、にぎわいの創出、心の復興、
人と人のつながりが生んだ数々の奇跡…etc.
伝えたいのは、安心安全で幸せな明るい未来を築く、
ほんの少しの防災意識です。

歩くスピードで見て聞いて感じる。感じたことを考える。
五感をフル活用する質の高い学習の場を提供します。
また、地域の魅力や営みを通して「防災」に触れることで、
きっと人生楽しくなる。そんな学びを目指しています。
野田村の震災学習プログラムをぜひご体感ください。

歩く。感じる。考える。

野田村スタイルの 防災ウォーク＆ワークショッププログラム

参加者の声

いつ、どこで、何が起こるかは誰にも予想できないと知ったので、災害が起こる前に、必要なものを前もって準備しておくことや、避難場所を確認しておくことなど、いまできる対策をイメージしたいなと思いました。（小学６年生）

震災学習のほか、地方の暮らしや産業に触れ、住民と交流できたことで、医師を志している自分の将来進む道を考えさせられました。漁師さんが格好良かったです！今や「NO 野田村，NO Life」になりました笑（大学３年生）

みちのく潮風トレイルを歩きながらの震災学習は、歩行距離もちょうどよく、海・街・山と変化に富んだコースで楽しめました。役場の方々のお話がわかりやすく、普段のツアーでは味わえない奥深い内容でした。（60 代女性）

基本コースのご紹介

イントロダクション　被災から復興までの歩みと村の地形をとらえる「野田村復興展示室」

所要時間 約20分

津波の被害状況や教訓、復興の足跡を将来に語り継ぐためにつくられた展示施設を見ることからプログラムを開始します。震災前の村の様子と発災から復興までの歩みを大まかにとらえ、実際に街を歩くためのイメージを形成します。

得られる気づき
- ○映像で見る津波の威力・復興までの軌跡
- ○野田村中心部の震災前の街並みと現在の比較

ウォークエリア 1　水産業の復興（なりわいの再生）を学ぶ「野田漁港エリア」

所要時間 約20分

名産品の「のだ塩」や「荒海ホタテ」を生む野田村の海。海は、「災いをもたらす」だけでなく「恵みや豊かさをもたらす」という二面性があります。発災・復興フェーズにおける漁師さんの葛藤や行動を追うことで、なりわいの再生を深く感じることができます。

得られる気づき
- ○発災時の人々の行動様式
- ○津波災害からの水産業の再興
- ○すべてを失っても立ち上がった漁師さんたち（人間）の力強さ

歩き方　岸壁から漁船や海を眺め、再建した市場を通り、当時漁師さんが逃げた台場公園（高台）に上って、その高さと海との距離感を体感します。

ウォークエリア 2　高台移転と地域コミュニティの再生を学ぶ「新町エリア」

所要時間 約15分

市街地に住んでいた方々の新しい住まいの確保のために、山を切り開き、文字通り新しく宅地造成された新町地区。住民間のプライバシーへの配慮やコミュニティ再生、空間を広く利用するための都市計画（デザイン）の工夫が随所に見られ、新たに住みよい街を創造することの大切さが感じられます。

得られる気づき
- ○安心安全に暮らしたいと願う人々の思い
- ○震災前より、さらに良い街を作るビルドバックベターの考え方
- ○心地よく暮らすことのできる住まいのデザインの仕方

歩き方　エリアの中心にあるコミュニティセンターから歩き始め、周囲の家々を眺めながら、そのまちづくりの工夫を見つけていきます。

ウォークエリア 3　災害に強いまちづくりを学ぶ「十府ケ浦公園エリア」

所要時間 約15分

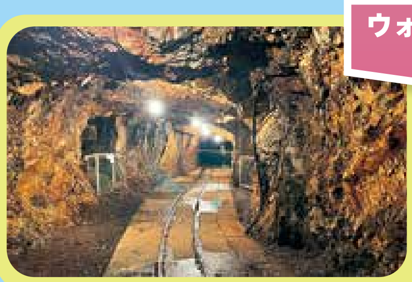
村は、今後来たる津波から住民の命と財産を守るために、「防潮堤」「国道・鉄道」「公園盛土」の３つの堤防機能により、住民の避難の時間を確保しています。日常の憩いと有事の避難の両方がデザインされたエリアを歩き、災害と共存する暮らしとは何かを感じることができます。

得られる気づき
- ○災害に強いまちづくりの工夫
- ○復興まちづくりに関わった地域内外の多くの人々の思い

歩き方　防災緑地（公園）から線路の下をくぐって防潮堤の上を歩き、その高さの違いを体感します。砂浜に下りて海を感じられるほか、海岸清掃活動などを組み合わせることもできます。

ウォークエリア 4　独自の資源を生かした地域活性の取り組みを学ぶ「玉川エリア」

所要時間 約60分



現在日本ではここでしか産出されていないバラ輝石がみられるマンガン鉱山。地域の特産物「山ぶどう」を使ったワインを製造するワイナリーも隣接し、坑道内ではワインの貯蔵熟成も。独自の資源を磨いて地域外とつながり、関係人口を生むユニークな取り組み事例を知ることができます。

得られる気づき
- ○震災後に生まれた新しいビジネスの可能性
- ○独自の地域資源の発信の工夫（ブランディング）

歩き方　マリンローズパーク野田玉川の坑道を歩き、海が見えるワイナリーを見学したのち、みちのく潮風トレイルのルートをたどって、キャンパーに人気の玉川野営場と玉川海岸を目指すのもおすすめです。

ウォークエリア 5　住まいと暮らしの移り変わりを学ぶ「下安家地区」

所要時間 約15分

サケやマスの孵化場がある下安家地区。このエリアでは、発災後避難場所となった国民宿舎えぼし荘、その後の復旧フェーズで利用された応急仮設住宅、そして自力再建した戸建て住宅と、発災～復旧・復興における住まいと暮らしの移り変わりを時系列に沿ってとらえることができます。

得られる気づき
- ○実際の避難行動の疑似体験
- ○人々の住まいと暮らしの移り変わり

歩き方　安家川流域の下安家漁協付近から、避難場所／避難所である国民宿舎えぼし荘を目指して坂道の避難道を上る体験をし、周辺に見える住宅環境について考えます。

ウォークエリア 6　災害の爪痕と鎮魂の祈りを捧げる「米田エリア」

所要時間 約20分

３つの震災伝承施設が集まる米田地区。破壊された歩道橋の一部や「22.5m」の津波到達高の表示は、言葉以上に人々の心に様々なものを訴えかけます。最後は、ほたてんぼうだいにある大津波記念碑の前で、津波の教訓を心に刻み、自身にも起こりうる災害へのイメージへとつなげます。

得られる気づき
- ○津波災害のすさまじい威力
- ○後世の命を救うために つなぐ教訓と願いの数々

歩き方　三陸鉄道「十府ケ浦海岸駅」付近から、壊された歩道橋の一部、津波到達高を示した水門などを見ながら、大津波記念碑のあるほたてんぼうだいを目指して歩きます。